

GSC and Japan at the Frontier of Emerging Issues

小宮山 宏

Komiyama Hiroshi, President, the University of Tokyo

113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1, 東京大学総長

Tel:03-5841-2000, Fax:03-3818-3163, E-mail:komiyama@adm.u-tokyo.ac.jp

The problems that come with industrialization tend to surface earlier here in Japan than in other developed countries. In short, Japan is a forerunner in terms of the emerging social problems faced by advanced societies. Sooner or later, other countries are bound to face similar problems. If we can create technologically innovative solutions to these problems, they will be the new sources of Japan's international competitiveness. What we need now is the courage to take the lead.

日本は、江戸時代から幕末までの鎖国の時代、武士道、俳諧、茶の湯、浮世絵、能楽、歌舞伎など精神性の高い世界一級の文化を開花させた。その反面、この鎖国時代に、科学技術、生産技術で世界から大きく遅れをとることになった。そして、突然の黒船の来訪により、国の存亡に関わるほどの、決定的なその遅れに気づかされることになる。この時、日本人は突如として「途上国意識」の虜になってしまったのである。

日本は世界に追いつくために、産業技術のほか、議会制度、警察制度、大学制度など、国の社会システムのほとんどを欧米諸国から導入した。その結果、1960年代後半には世界第二の経済を有する大国となったのである。しかし、このわずかな期間に、課題解決のモデルを欧米に求めようとするメンタリティが根強く染み込んでしまった。日本は先進国として先頭に立ったにもかかわらず、「途上国意識」だけが残ってしまっているのである。この「途上国意識」を払拭し、日本が真の先進国として世界から尊敬を受け、競争力を獲得するためにはどうすればよいのか。

日本は資源の少ない狭い国土に、高い人口密度で、国民全体が最先端の文明を享受するという、世界でも類のない先進国であるという特徴がある。現在、日本に現れているさまざまな問題は、この特徴ゆえに起きているものが多い。エネルギー問題に関して言えば、日本は原子力を国産と考

えても80%のエネルギーを輸入に頼っている。一方米国は、かつては世界最大の石油の生産国で輸出国でもあったのだが、巨大でかつ増え続ける消費と生産量の低下によって石油の輸入率が増え続け、すでに60%を超えている。日本は、エネルギー資源の高い海外依存度という課題を先取りしているのである。

日本の、天然資源が乏しく狭い国土に世界第二の経済を有する先進国という状況は、まさに21世紀近未来の世界の姿なのである。少子高齢化、エネルギー問題、環境問題などは、21世紀に世界全体が遭遇する困難といえる。日本の課題はいずれ世界が直面する課題であり、日本は他国に先駆けて課題が顕在化する「課題先進国」なのである。しかしそれは試練であると同時に、大きなチャンスともいえる。日本が自らの課題の解決に成功すれば、やがて世界が日本のシステムを導入することになる。それが日本の世界的な役割であり、国際競争力の源泉となるのである。

先進国となった日本が、欧米に課題解決のモデルを求めても答えはない。「課題先進国」を意識して自ら問題解決を図り、世界にデファクトスタンダードとしての持続可能な社会のモデルを提供できるか否か、問題の構造を自ら明らかにし、自ら解を導き出し、それらを断固実行に移すことで日本の針路は開けるのである。今、私達に必要なのは、この先頭に立つ勇氣である。